

ヤマシンフィルタ株式会社

2016年3月期

決算説明会

補給ビジネスとコストダウンで利益を確保
新製品開発と新分野開拓を進める

2016年5月23日
(証券コード6240)

I. 2016年3月期 実績	P. 6
II. 中期経営計画	P. 15
III. 2017年3月期 計画	P. 21
IV. 成長の可能性	P. 29

15.3期

16.3期

17.3期から

トピックス

東証二部

東証一部

ING19*

※時価総額300億円を目指した事業戦略 “Into the Next Generation 19”

環境分析

建機市場の低迷を受けつつも、
中国市場の底打ちを実感

次世代製品の開発と
建機以外での新分野開拓

自社取り組み

守りの業務改革

攻めの業務改革

■ 建機中国市場は中期的停滞期に。建機以外の市場も視野に入れる

	新興国	先進国
ライン品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国では不動産投資鈍化により大幅な減産 ■ 他アジア地域も、中国市場低迷の影響を受け減産 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本は排ガス規制駆け込み需要の反動 ■ アメリカではエネルギー関連投資の低迷を受け減産
補給品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建機の稼働時間減少の中、各建機メーカー・各地域において補給品在庫の引き締めが起こる 	
産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工作機械需要は上期好調、下期減速 	
プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国での自動車塗装用フィルタ需要が好調 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 韓国の半導体企業との協力体制が進む

建機 中国市場



中国の建機市場は大きく低迷しているが、下げ幅は縮小傾向にある

東証一部に指定



東証一部指定を契機に、更なる業容拡大と一層の企業価値向上へ

I . 2016年3月期 実績 ~PAC15によって稼ぐ生産体制に~

当社決算の特徴

セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「ライン品」と「補給品」にわかれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ
 - 重要指標は、「新車需要台数」
- 補給品は交換部品用のフィルタ
 - 重要指標は、「稼働台数」×「稼働時間」

販売形態 と 地域別動向

- 建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売(100%)
- エンドユーザへの直販は基本的に行っていない
- 地域別売上高は参考値
- 当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる
- 「連結調整」とは、子会社の会計上の期ズレを調整したもの

2016年3月期 実績サマリー

■ 建機市場の低迷により、前期比減収減益

	15.3期	16.3期	16.3期	16.3期	前期比増減	
	実績	当初 予算 ^{*1}	修正 計画 ^{*2}	実績	金額	%
(単位:百万円)						
売上高	10,703	11,353	9,406	9,458	△ 1,245	△11.6%
営業利益	869	835	368	407	△ 462	△53.2%
当期 純利益	430	540	200	183	△ 246	△57.3%
ROE	8%	8%	3%	3%	—	—

※1: 2015年5月15日に開示した業績予想をもとにした数値です。

※2: 2016年2月 4日に開示した業績予想をもとにした数値です。

製品別売上高

- ライン品は、中国市場低迷を主因に大幅な減収
- 補給品も、得意先各社の在庫持ち高調整の影響を受け減収

(単位:百万円)

	15.3期	16.3期	16.3期	16.3期	前期比増減	
	実績	当初 予算	修正 計画	実績	金額	%
建機用フィルタ	9,479	10,261	8,131	8,167	△ 1,312	△13.8%
ライン品	4,329	4,875	3,537	3,549	△ 779	△18.0%
補給品	5,150	5,385	4,593	4,617	△ 532	△10.3%
産業用フィルタ	444	479	458	468	24	5.4%
プロセス用フィルタ	667	709	825	815	148	22.3%
連結調整	112	△97	△8	6	△ 105	△93.9%
売上高合計	10,703	11,353	9,406	9,458	△ 1,245	△11.6%

地域別売上高

- 建機市場の低迷を主因に、多くの地域で減収
(注) 当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

(単位:百万円)	15.3期 実績		16.3期 実績		前年同期比	
	金額	%	金額	%	金額	%
国内	5,525	51.6%	4,885	51.6%	△ 640	△ 11.6%
北米	2,120	19.8%	1,722	18.2%	△ 397	△ 18.8%
中国	687	6.4%	540	5.7%	△ 146	△ 21.4%
アジア	1,055	9.9%	1,053	11.1%	△ 2	△ 0.2%
欧州	1,091	10.2%	1,120	11.8%	28	2.6%
その他(中東他)	112	1.0%	130	1.4%	18	17.0%
連結調整項目	111	1.0%	6	0.1%	△ 105	△ 93.9%
売上高合計	10,703	100.0%	9,458	100.0%	△ 1,245	△ 11.6%

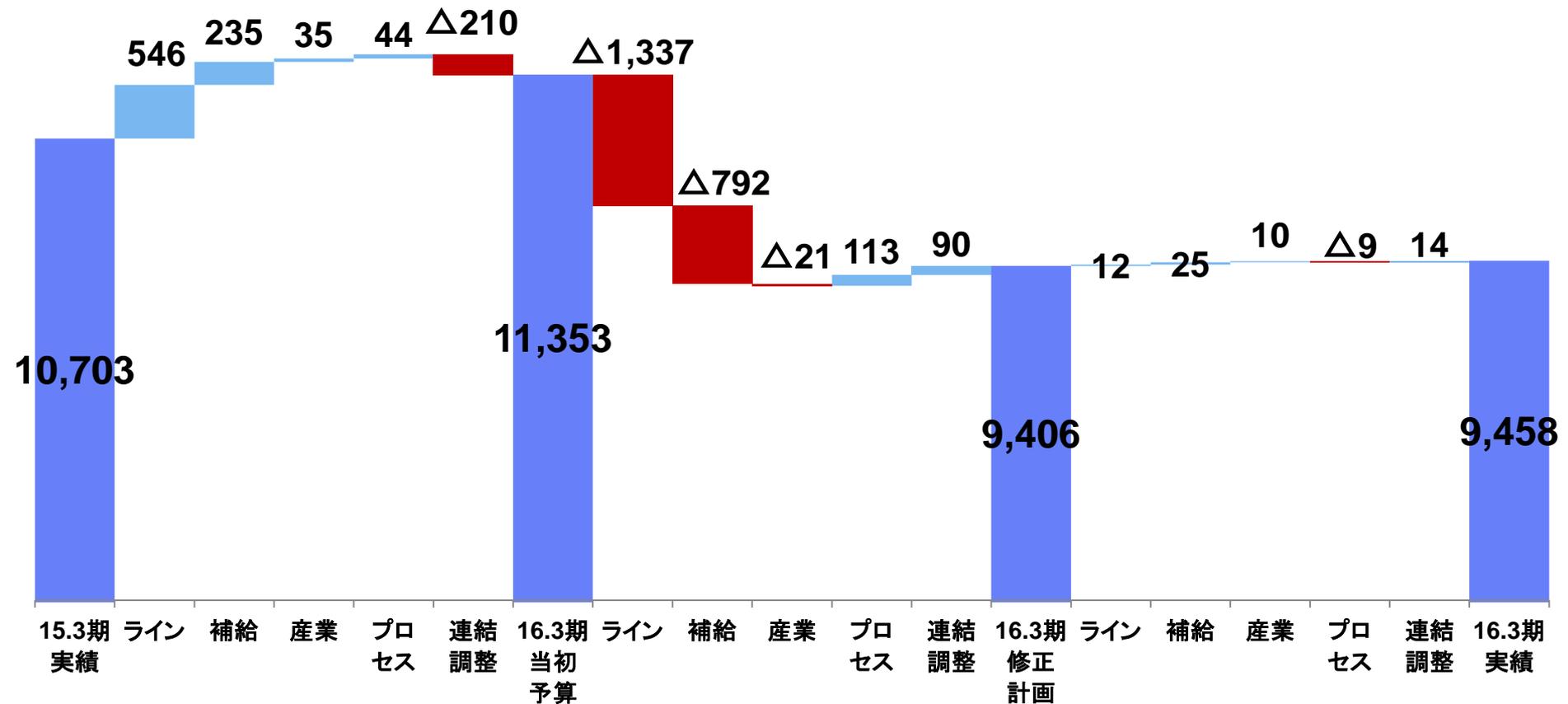
※地域別売上は、当社の請求書送付先である法人の所在地を集計しております。

※地域別売上集計方法変更に伴い2015.3月期の金額内訳が変更になっております。

売上高の増減要因

■ 中国市場低迷によって当初予算よりもライン品、補給品ともに大幅減収

(単位:百万円)

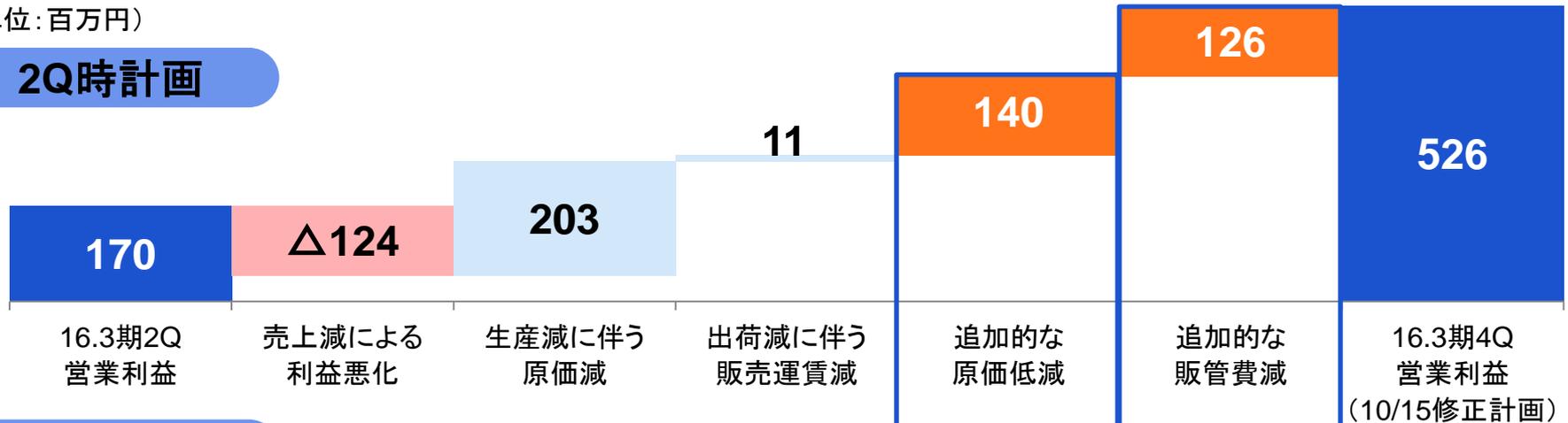


Project PAC 15

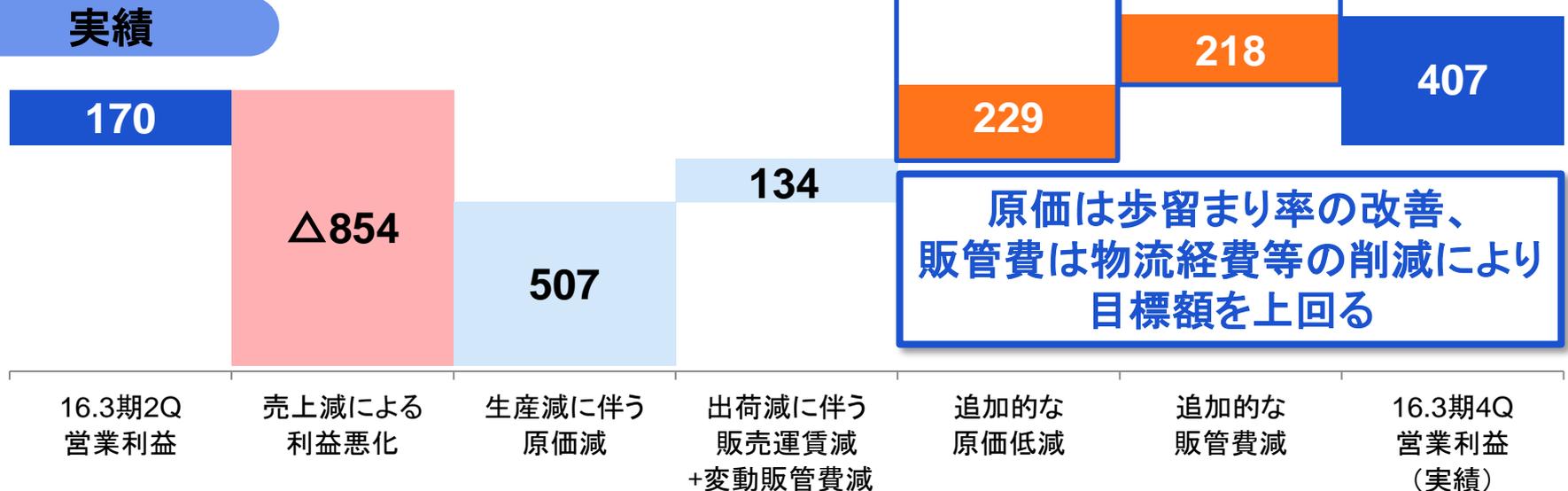
■ 追加的なコスト削減額は目標を上回る。利益確保に大きく貢献

(単位:百万円)

2Q時計画



実績



貸借対照表

- 社債発行等により現預金増加
- 30億円のコミットメントライン契約*も含め、安定した財務基盤を確保

※: 2016年3月25日開示

(単位: 百万円)	15.3期 期末	16.3期 期末	増減額		15.3期 期末	16.3期 期末	増減額
流動資産	7,384	7,604	220	流動負債	1,893	1,704	△ 189
現金・預金	2,645	3,806	1,160	支払手形及び買掛金	1,066	796	△ 270
受取手形及び売掛金	2,464	1,880	△ 583	短期借入金 1年以内返済社債・長借	300	500	200
商品・製品 & 原材料・貯蔵品	1,765	1,465	△ 300	その他	527	407	△ 119
その他	509	452	△ 56	固定負債	1,102	1,617	515
固定資産	1,963	1,919	△ 44	社債	-	800	800
有形固定資産	1,456	1,322	△ 133	長期借入金	750	450	△ 300
無形固定資産	164	97	△ 67	退職給付に係る負債	147	164	16
投資その他資産	341	499	157	その他	204	203	△ 1
資産合計	9,347	9,523	176	純資産合計	6,351	6,201	△ 149
				負債純資産合計	9,347	9,523	176

自己資本比率

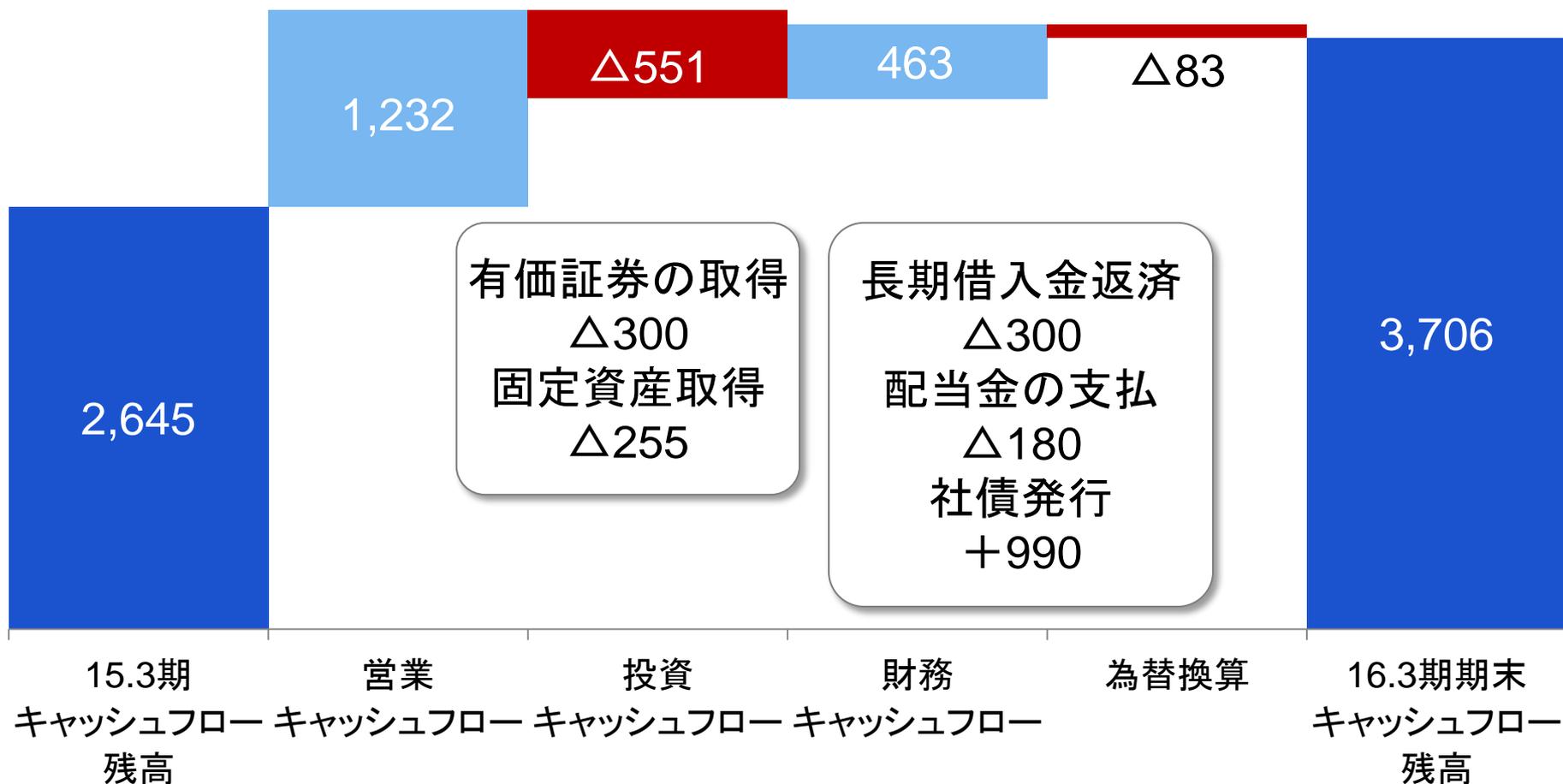
67.9%

65.1%

キャッシュフローの増減要因

■ 現金及び現金同等物の残高は前期末比で増加

(単位:百万円)



Ⅱ. 中期経営計画

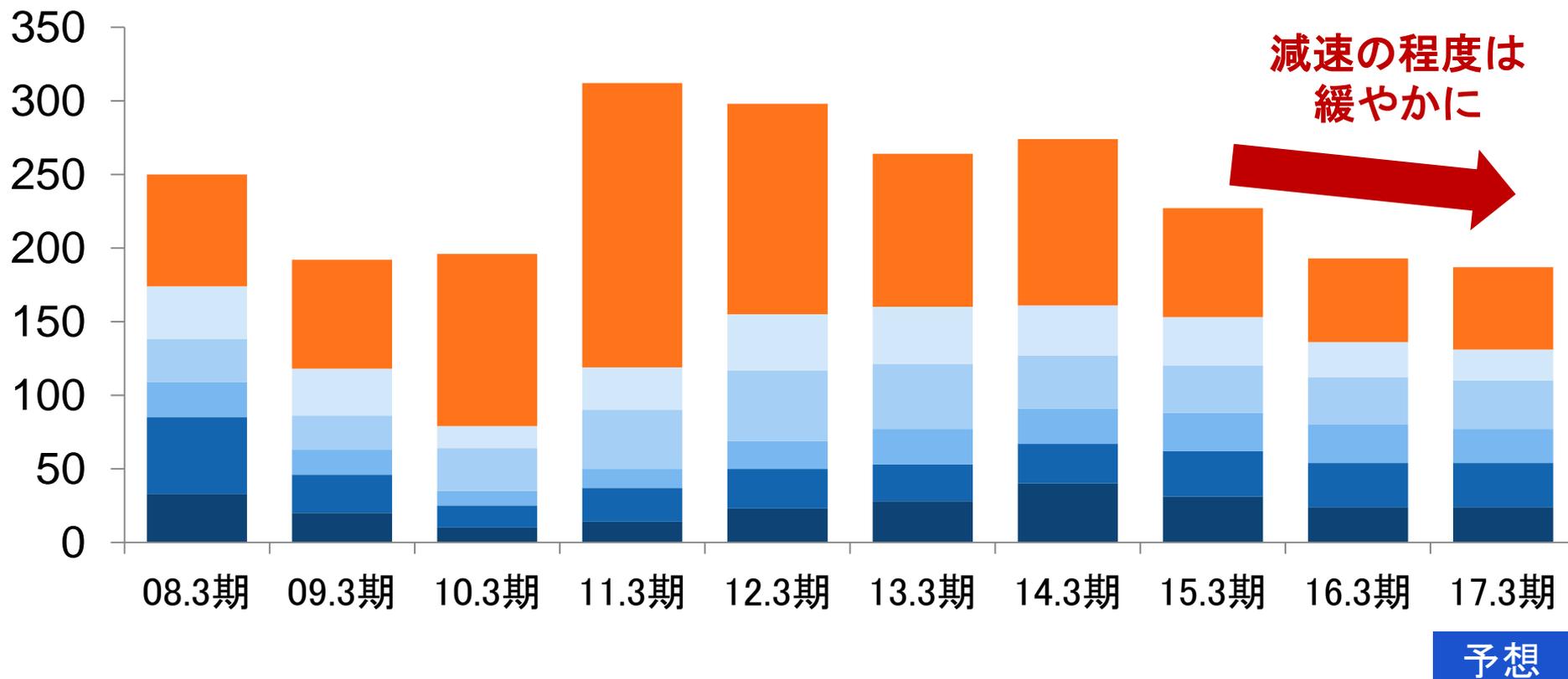
～新提案によるライン品拡大と

販促活動強化による補給品底上げを図る～

事業環境/油圧シヨベル新車需要

■ 16.3期は新車需要がとりわけ下期大幅減速。17.3期の減少幅は縮小傾向

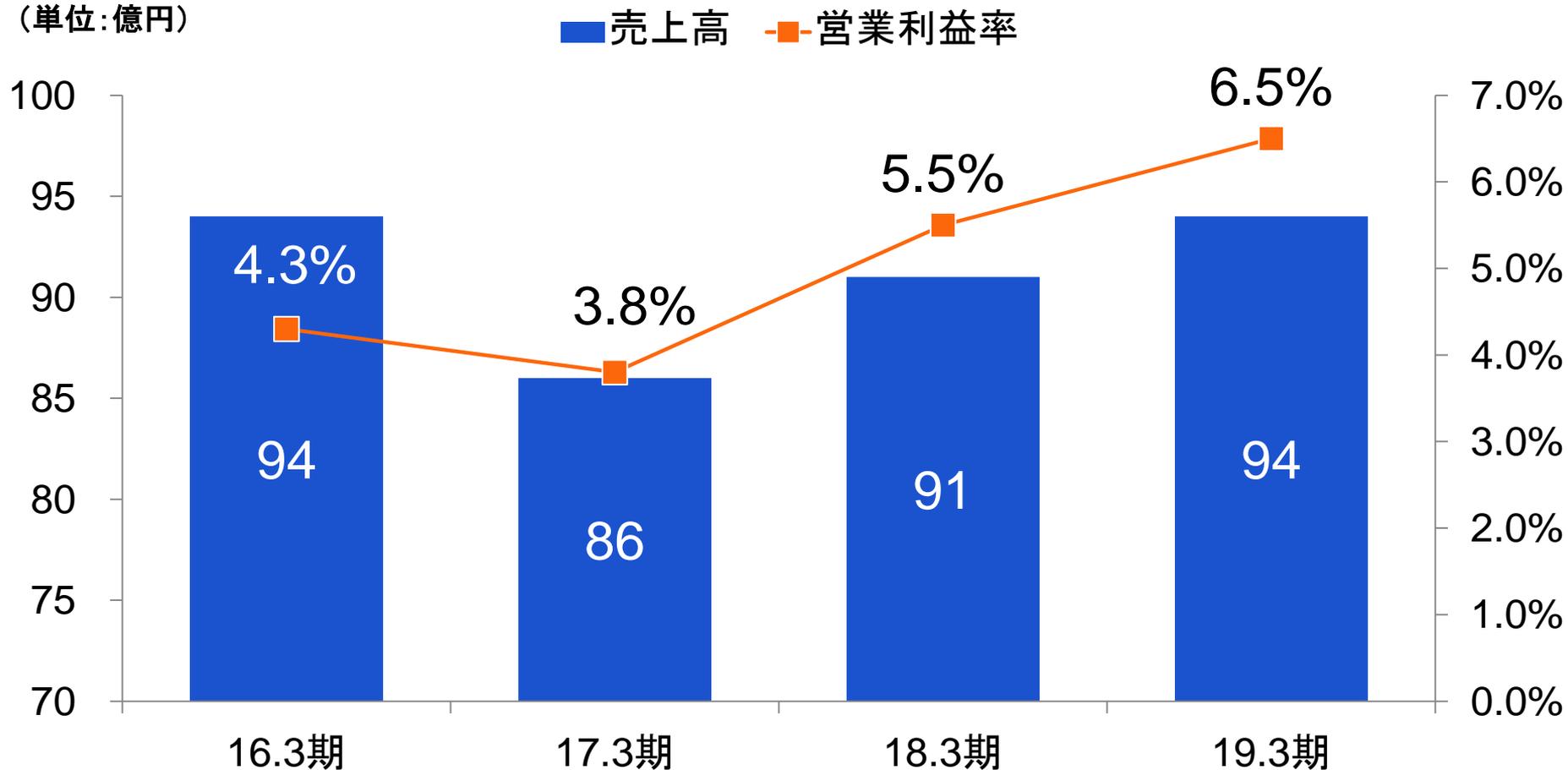
(千台) ■ 日本 ■ 欧州 ■ 北米 ■ アジア・大洋州 ■ その他の地域 ■ 中国



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

■ 市場低迷の中、3年後の売上高及び利益率の向上を目指す

(単位:億円)



2017年3月期 通期業績予想

■ 売上高の回復が見込めない中で、利益率の確保に努めていく

	16.3期	17.3期	前期比増減	
	実績	計画	金額	%
(単位:百万円)				
売上高	9,458	8,670	△ 787	△8.3%
営業利益	407	344	△ 63	△15.5%
当期純利益	183	181	△ 2	△1.7%
ROE (%)	3%	3%	—	—

※想定為替レート:1USDドル=120円、1ユーロ=130円

2017年3月期売上予想 製品別

- ライン品・補給品ともに、需要は前第3四半期を底に回復傾向だが、前期比では減収の見込み

	16.3期	17.3期	前期比増減	
	実績	計画	金額	%
(単位:百万円)				
建機用フィルタ	8,167	7,420	△746	△9.1%
ライン品	3,549	3,069	△479	△13.5%
補給品	4,617	4,350	△267	△5.8%
産業用フィルタ	468	483	15	3.3%
プロセス用 フィルタ	815	783	△32	△4.0%
連結調整	6	△17	△24	—
売上高合計	9,458	8,670	△787	△8.3%

売上拡大策の俯瞰図 ~具体的取り組み~

セグメント		対応方針のKeyword	具体的取り組み
建機フィルタ	ライン品	■ 故障予知、ICT技術の提案	■ ICT技術を取り入れた製品の開発
		■ 効率化の提案	■ フィルタ単体から油圧システム全体の効率化提案
	補給品	■ セミナー展開によって非純正品からのシェア奪回	■ 重点エリアを選定し、セミナーを集中的に開催
産業フィルタ		■ パートナーとの協力体制強化	■ エンジン用フィルタの開拓
プロセスフィルタ		■ 製品シリーズの多様化	■ 電子業界の開拓

Ⅲ. 2017年3月期 計画
~コストダウン計画は継続
利益の減少を最小限に抑える~

補給品の販売促進活動 進捗

- 稼働時間減少および在庫持ち高調整の影響を受けたものの、販売促進活動により、補給品の減収幅は抑えられている

項目

純正品
セミナー活動

16.3期 下期の方針

エリア別
効率性重視

今後の方針

中国において
効果を実感
アジアへの展開へ

販売代理店
との関係

部品ビジネスに
注力させる

トップ間での交渉
を定期的に実施
関係構築を継続

- 厳しい市場環境の中で、補給品ビジネス拡大を図る

補給部品 販売量

①マクロ環境

稼働台数 × 稼働時間

公共工事や
不動産投資の度合い

②顧客

顧客の補給在庫

各建機メーカーや販売
代理店の業績や方針

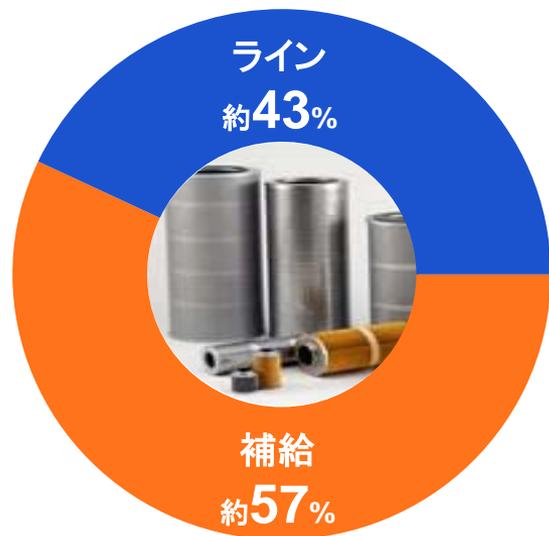
③自社の取り組み

純正率

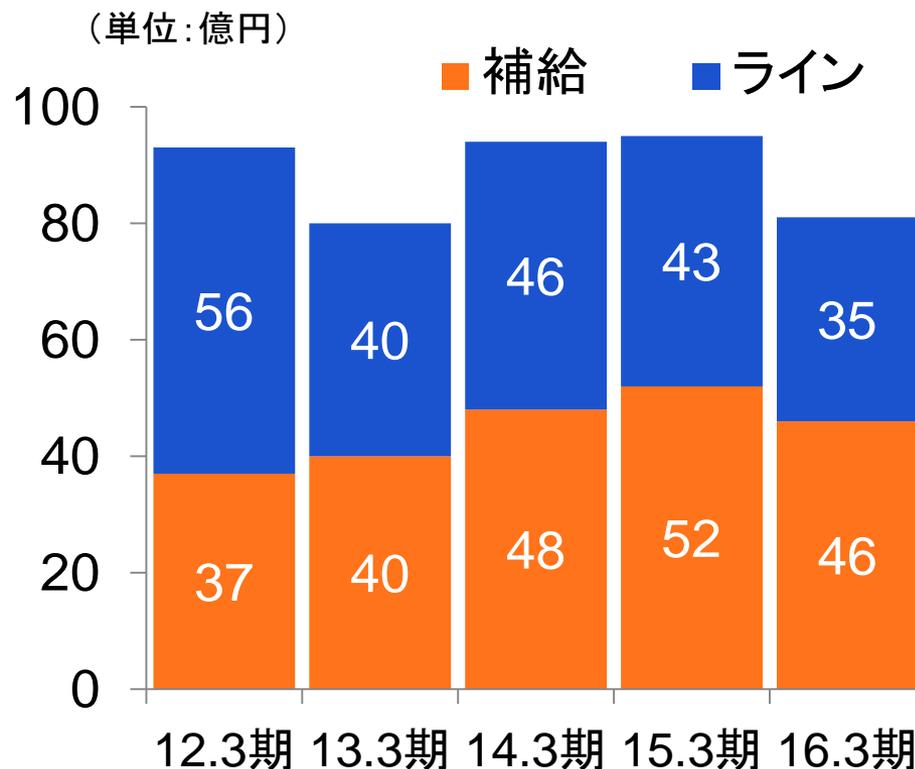
純正品としての
品質差・認知度

- 補給はストックモデル。建機稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

16.3期 建機用フィルタ 売上構成



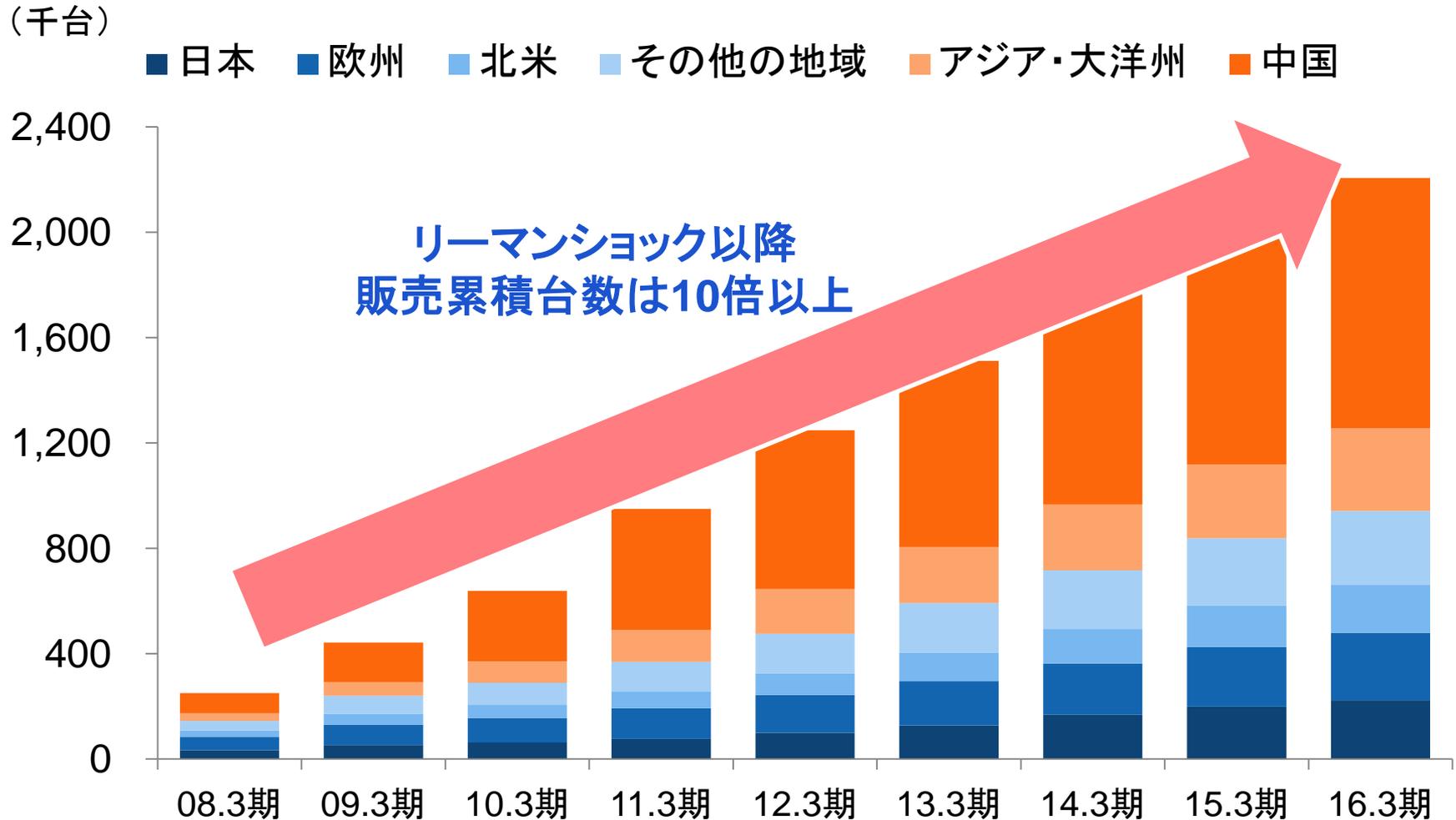
補給・ラインの売上高推移



※2012年3月期については単体の数値

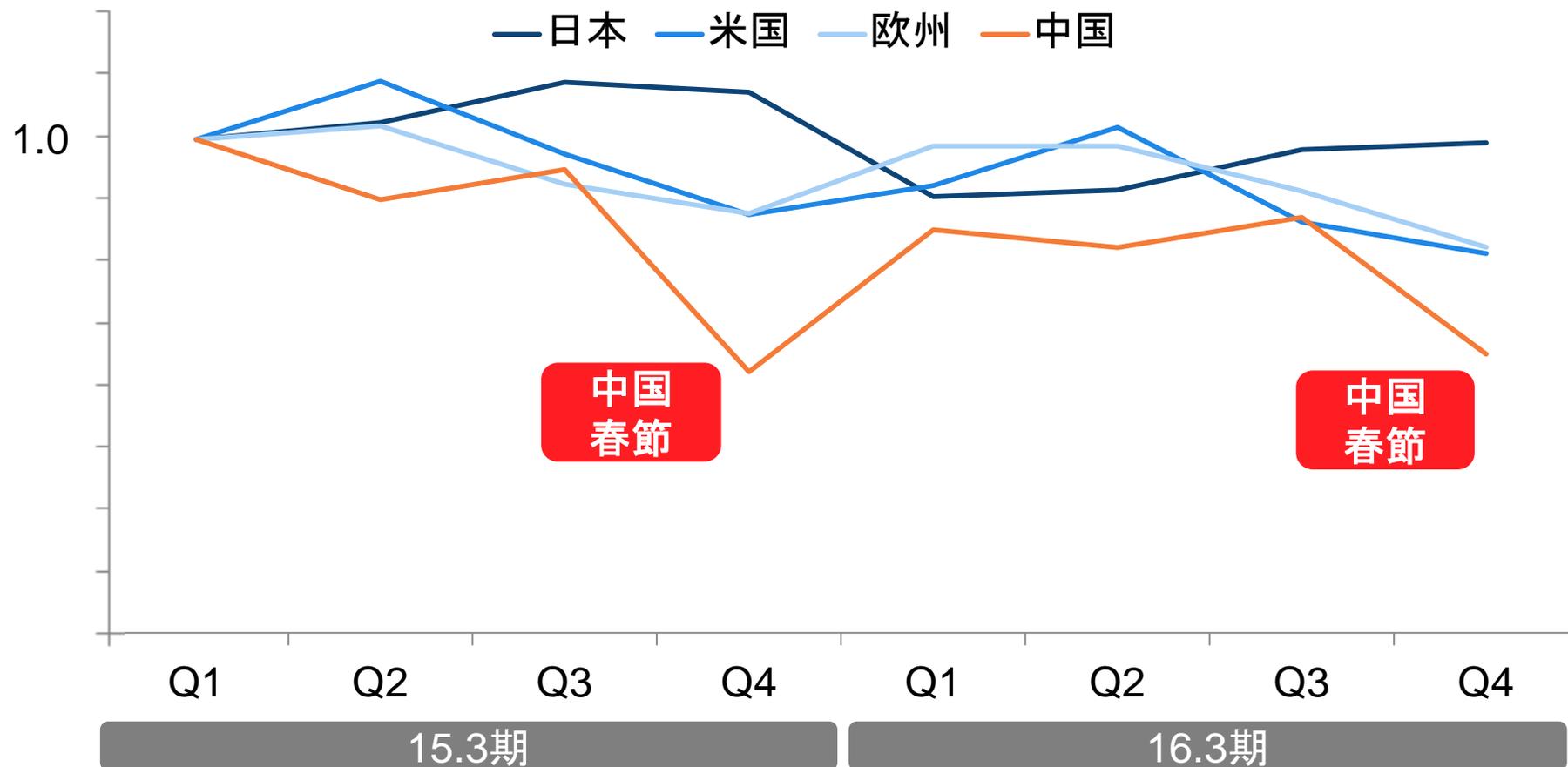
新車販売累積台数

リーマンショック以降も販売累積台数は増加



■ 全体として緩やかな減少傾向

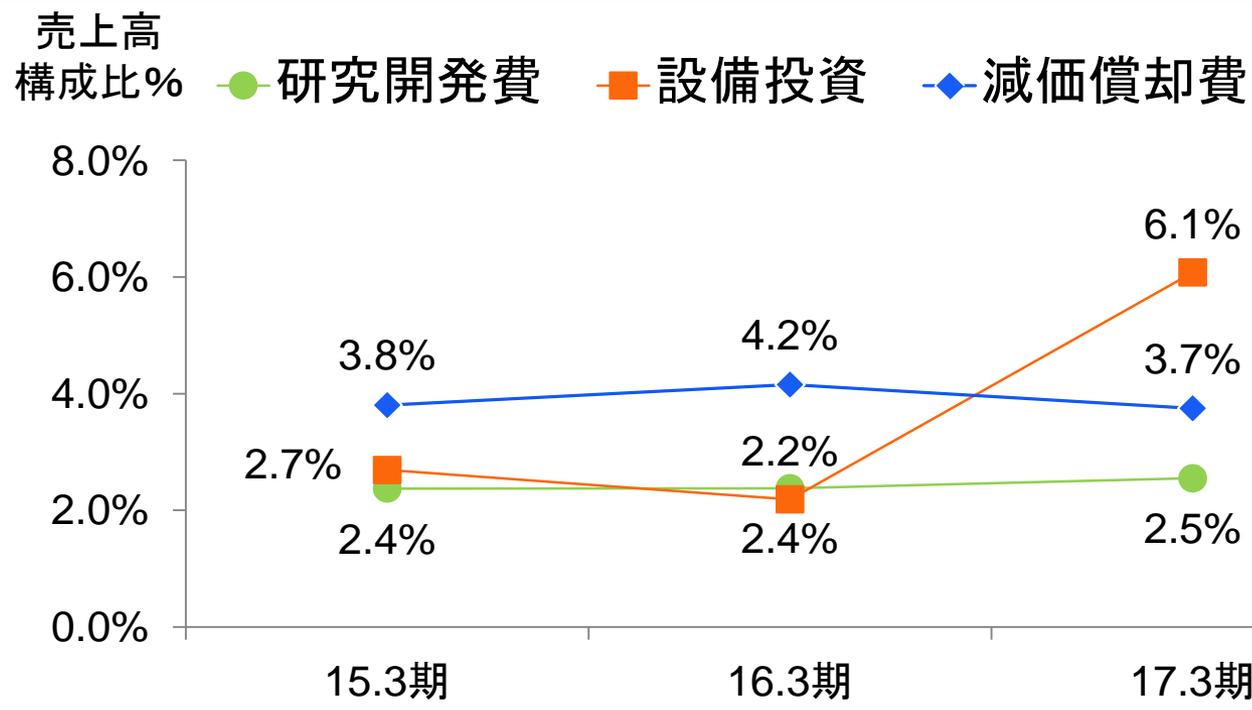
(2014年4~6月の値を1.0として指数化、四半期ごとの推移)



(出所)野村証券アナリストレポートをもとに当社作成

研究開発費・設備投資・減価償却費の推移

■ 新提案に向けた準備等により、設備投資額増加を見込む



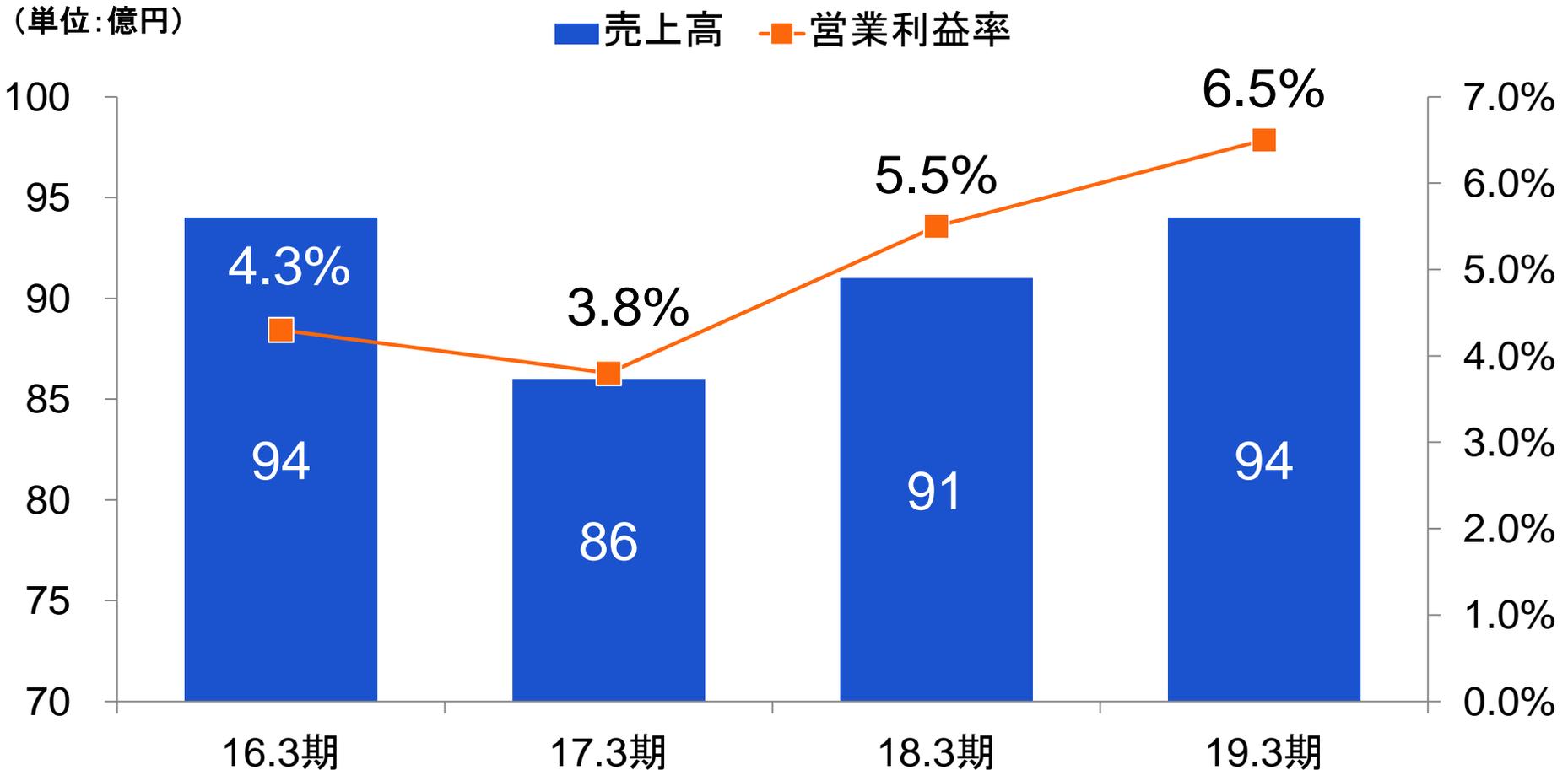
(百万円)	15.3期	16.3期	17.3期
● 研究開発費	254	225	221
■ 設備投資	288	207	527
◆ 減価償却費	407	393	325

IV. 成長の可能性

~建機以外での新分野への拡大~

中期経営計画（再掲）

■ 市場低迷の中、3年後の売上高及び利益率の向上を目指す



売上拡大策の俯瞰図（再掲）

セグメント		対応方針のKeyword	具体的取り組み
建機フィルタ	ライン品	■ 故障予知、ICT技術の提案	■ ICT技術を取り入れた製品の開発
		■ 効率化の提案	■ フィルタ単体から油圧システム全体の効率化提案
	補給品	■ セミナー展開によって非純正品からのシェア奪回	■ 重点エリアを選定し、セミナーを集中的に開催
産業フィルタ		■ パートナーとの協力体制強化	■ エンジン用フィルタの開拓
プロセスフィルタ		■ 製品シリーズの多様化	■ 電子業界の開拓

■ 継続してコストダウン活動を行い、利益体質を強化する

PAC16とは

Promptly **A**ctivated **C**ost reduction 20**16**

迅速 かつ効果的な コスト削減計画

背景

市場の低迷
売上減少

科目

製造原価

販売管理費

アクション
プラン

生産の効率化
サプライチェーン
強化

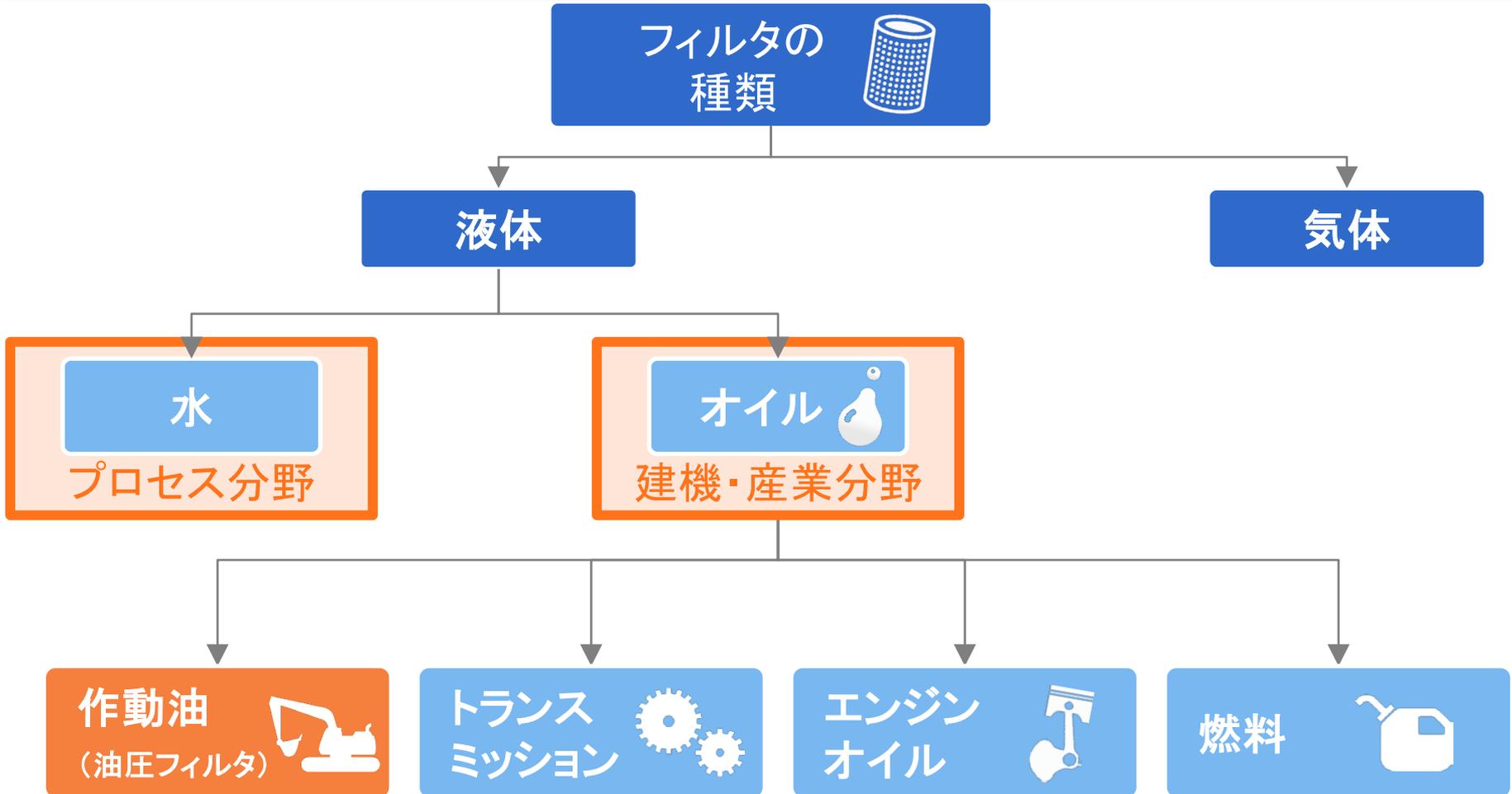
営業経費、
管理費の削減

削減目標額

約1.9億円

約1.5億円

- 今後、建機分野と産業・プロセス分野とのシナジーを高めていく



■ 周辺分野を深耕し、新しい領域にチャレンジ

新規顧客



建機油圧
フィルタ

建機周辺

産業

プロセス

新製品

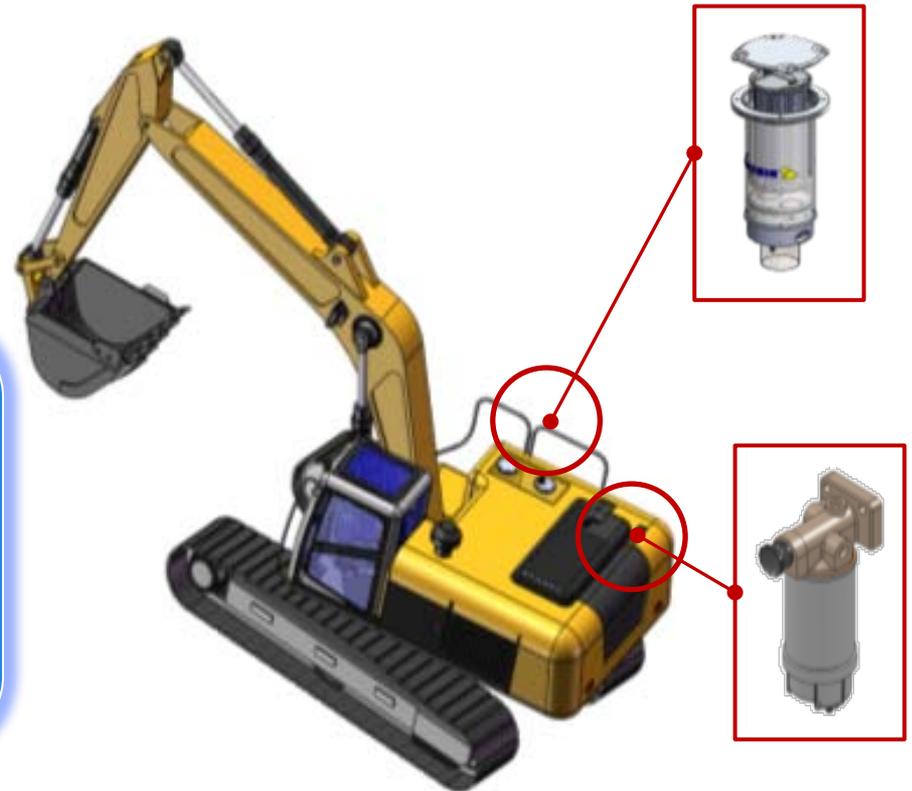
リリース①:三一重機へ商品供給開始

- 中国ローカルメーカーへの本格的参入は当社初となる試み

三一重機とは

中国最大の総合建機メーカーである
三一集団のグループとして、
油圧ショベル等を製造・販売する企業

当初計画通り、
4月より商品供給を
開始



リリース②: エイケン工業との業務提携

■ エイケン工業との業務提携に関する基本合意書を締結

ヤマシンフィルタ株式会社
[東証一部:6240]

建機用油圧フィルタが
中心

エイケン工業株式会社
[東証JQS:7265]

自動車エンジンオイル用
フィルタ
燃料用フィルタ



経営資源、経営ノウハウ
の有効活用

事業効率の向上

収益の拡大

企業価値の向上

- 17.3期の1株当たり配当金は、16.3期の額を維持する予定
- 株主優待内容に変更はなし

	15.3期	16.3期	17.3期
1株当たり 配当金	19円* ¹	10円	10円
株主優待*	—	【新設】	【継続】
DOE	1.9%	2.0%	—

※1 2015年9月1日付けで、普通株式1株を2株に分割いたしました。

2015年3月期の1株当たり配当金は**株式分割前の配当金の額**を記載しております。

※ 株主優待内容:

100株以上1,000株未満保有の株主様に500円分、1,000株以上保有の株主様1,000円分のQUOカードを進呈。
権利確定月は3月末日と9月末日の年2回。

参考利回り(配当+優待): **4.45%**(1単元保有時、2016年4月末の株価449円で計算)

16.3期実績

- 建機市場の低迷を背景に、前期比減収減益
- コスト削減目標は達成

中期計画

- 3年後の売上・利益の向上を計画
- 新製品の開発は積極的に継続

新分野

- 建機市場以外への進出を準備
- 総合フィルタメーカーへの飛躍を目指す

この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは
ヤマシンフィルタ株式会社 経営企画室まで

TEL (045-680-1680)

E-mail: ir@yamashin-filter.co.jp